

ながわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 86

裂田溝13

山田バス停周辺

山田バス停は、裂田溝「水環境整備事業」第一期工事で、平成17年6月に改築されました。バス停は、溝の一角を覆う形で建てられています。待合室、ベンチ、周囲の柵などすべて木材を使った「あずまや」風の造りです。時折、散策中の人々がひと休みする場所としても、利用されているようです。

バス停の上流に目を移すと、新しい石垣が水に映えて、ゆつたりと流れる溝の風景は、しばしの間の流れを忘れさせてくれます。バス停横の「橋4」を渡り西へ50m行くと、道路沿いに幹回り4.8m、高さ25mのムクの木が立っています。この木は樹齢500年とも言われており、新緑の頃になると若葉が一斉に幹を覆い、上空高くそびえる姿は、「大イチョウ」と共に山田のシンボルとして、住民に親しまれています。秋には大きな甘い実を、たくさんつけます。



山田バス停



山田七天神の一つ

号と並行して流れてきた溝は、ここで東へ直角に大きく流れを変えて小柳集落へと向かいます。国道385号の下をくぐった水は、小柳集落入口にある荻原堰の石柱でせき止められます。ちょうど、国道の下に水が溜まる仕掛けになっているのです。溜まった水は「取水口2」の巻上げから、田んぼへ取水されます。巻上げから西に20m先の屋敷内に「八十八ヶ所札所・将軍地蔵」があります。ここは山田中溝地区といい、北側の田んぼの中にしめ縄を張った老木があります。老木は「山田七天神」のひとつで毎年、近所の人たちが神官を迎えてお祭

を行っていています。先の山田西地区には「八十八ヶ所札所・虚空蔵菩薩」があります。国道385号の那珂川町山田の信号西側一帯が「山田西遺跡群」です。ここからは縄文時代後期・晩期の大集落と中世の遺構が発見されています。近くに建築中の大きな建物は、3月下旬落成予定の「春日・大野城・那珂川消防署西出張所」です。ここは、かつて「キンノジョウ」と言われ、江戸時代、黒田藩の献上米が作られていた「一等田」だったと伝えられています。次号は昔ながらの「汲ん場」が多く残っている小柳地区を紹介します。



荻原堰

荻原堰

- 史跡メモ**

 - 山田バス停より
 - ムクの木
 - 山田七天神の一つ
 - 将軍地蔵
(那珂川八十八ヶ所番外ヌ)
 - 山田七天神の一つ
 - 虚空蔵菩薩
(那珂川八十八ヶ所番外リ)
 - 山田西遺跡
- コースメモ**

 - 20. 橋 - 4
 - 21. 汲ん場 - ル
 - 22. 汲ん場 - オ
 - 23. 取水口 - ②
 - (まきわらせき 荻原堰巻上げ)
 - 23. 荻原堰

↓

次号へ

 - 24. 汲ん場 - ワ



取水口② 荻原堰巻上げ

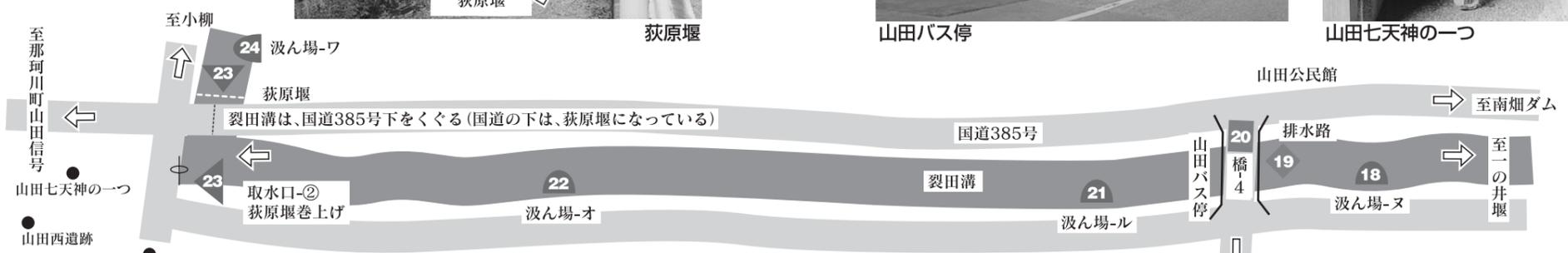
汲ん場-オ

荻原堰

国道385号の下をくぐった水は、小柳集落入口にある荻原堰の石柱でせき止められます。丁度国道の下に水が溜まる仕掛けになっているのです。ここで溜まった水は、23. 取水口② 荻原堰巻上げより田圃へ取水されます。



ムクの木



山田西遺跡



将軍地蔵(八十八ヶ所番外ヌ)



山田七天神の一つ



虚空蔵菩薩(八十八ヶ所番外リ)